

人生 100 年時代の生き方事例

パソコンサポートボランティア

Dream Navigator Yokohama

2019/11/7 宮田 芳光

S41 年(1966 年) NEC 入社、当時できたばかりの衛星通信開発本部に配属。専門は機械設計・構造設計分野です。従って専門的なソフトウェアの話はできません。

私も 77 歳、首記のようなタイトルならば、リタイヤ前後の履歴とボランティア活動への変遷について話すことは可能ということで今回引き受けました。

業務は通信機器それも国際間の無線通信いわゆる大型パラボラアンテナの設計が主でした。地上系のアンテナも含め多種多様なアンテナの設計に携わりました。コミュニケーションツールの設計という点でも多忙でしたがやりがいのある仕事でした。

しかしデスクワークが主であり 40 歳ころには何か物足りなさも感じていました。

そのような中で昭和 58 年 7 月末、山陰地方に 700mm 以上の大雨が降り、島根県の三隅川上流の美都町が被災し道路も通信網も断絶、陸の孤島となりました。その時私が携わった多目的車載型衛星通信地上局を急遽現地に運ぶことになり、設計者も来てほしいという要請を受け夜行のブルトレで横浜を出発しました。行けるところまで列車を使い、そのあとは車で現地に近いところまで行き、最後は車載型衛星通信地上局を車両から外し、分割して自衛隊のヘリコプターで被災地に運ぶという離れ業を行いました。想定外のこともありましたが何とかクリヤし陸の孤島からの衛星通信網を実現させることができました。

この時被災地の方々から「水も食料も大事だが通信網も大事」ということで大変喜ばれ感謝されました。そして同時に今まで感じていた物足りなさへの回答を得ることができました。

「対人関係が密になることをやろう」と。

ところがこれを実現することが困難でした。「対人関係が密になること」とは何だろうか？その模索が始まりました。いろいろなところに出かけてみましたが、自分に適したことを見出すことはできませんでした。仕事が忙しくなったり、職場が変わったりして探し始めて 10 年以上経過してしまいました。

そのような中 JD（日本障害者協議会）プロジェクトによる「パソコンボランティア」という書に出会いました。1997 年 7 月末です。そこから ML による申し込みにより「技術ボランティア」というグループに参加しました。小田原にある国立療養所箱根病院にて月一回のパソコン活動が始まりました。

その後、ソフト分身会社に異動（1998 年 7 月）本社が新横浜にあり、パソボラ活動も地元のパソコンサポートボランティア Dream navigator Yokohama（通称 DNY）にシフトしました。活動拠点は横浜ラポール（横浜市の障害者スポーツ文化センター）でした。まさに地元です。DNY の特徴は障がい当事者がメンバーに多いということです。障がい者向けパソボラ活動には同じ障がい者による対応が一番です。

1999 年 11 月横浜ラポールにて「芸術市場」があり、そこで「パソコンで夢を」と題したイベントを DNY が主体になり開催、同時に私所属の分身会社社員に呼び掛け、そのイベントに 30 名程参加していただきました。受付ばかりでなく、アクセシビリティが必ずしも良くない横浜線を利用して来られる方々へのサポートも行いました。

その時 NEC 本社の CSR 推進本部では社会貢献活動の一つとして、Make a Difference Day(略称 MDD)を開催。そこで活動の Award として申請したところ、第一回の MDD Award として見事表彰され本社 CSR 推進本部とのつながりができました。

DNY の事務所がアスタ PC という横浜市地域作業所にあり、作業所との接点も生まれました。

また 2001 年国策として行われた、全国 550 万人への IT 講習に際し、DNY は横浜市に掛け合い、横浜市の障がい者対象の IT 講習は我々に実施させてほしいと持ち掛け、結果 250 名ほどの障がい者への IT 講習を実施することができました。

このころは退職時期が近づいていましたが、会社以外での身の置き所が十分にあるとわかってきましたので、リタイア後にどこかに再就職することを考える必要もなくなりました。リタイア前後から本社 CSR 推進本部から相談を持ち掛けられ、話し合いの中から NEC シニア IT サポーター養成講座を立案、横浜以外では北九州、沖縄、富山、高松などで行いました。

さらに子育てが一段落したお母さん方が社会復帰するときにはパソコンスキルが求められるということで「子育てママのための IT 講習」を講師として引き受けることになりました。窓口は新座市にある「NPO 法人新座子育てネットワーク」がまとめ役です。教材は大変な作業でしたが HTML+CSS+JavaScript による自作。託児付きという講座であり、このイベントは当初考えてもいなかったほどの人気を呼び、結局足掛け 10 年、札幌から沖縄まで 47 回続きました。

これらを時系列にまとめたものが次の絵です。退職は 2002 年 6 月 28 日（金）、おりしも同月 30 日が FIFA World Cup の決勝戦で新横浜駅前は大賑わいでした。

振り返りますと、まずは何か行動を起こすことが第一。すると予期せぬプラスのスパイラルが回りだし外部からも活動依頼が舞い込んでくる。生きがいにも通じる。引き受けるためには自ら健康にも留意することにもなる。というように気が付けばうまく歯車が回っていました。もちろん運もあると思いますが。

退職前後のボランティア活動



「プログラミング教室」をやろうとした経緯

2018年8月及び10月に別々の知人から「プログラミング教室」への要請がありました。当初はその知識がないとお断りしましたが、二度目はどんなことが求められるのか話を聞きに出かけました。そこでScratchを知り、Raspberry Piを知りました。Scratchを試行するとともに、Raspberry Pi及びいくつかの付加機材も入手しました。

文部科学省の「小学校プログラミングの手引き」を何度か読み、このままではうまくいかない何かしなくてはとの思いから、先生方向け教材となるものを作ってみようと、昨年末からスタートしました。2019年1月3日にはScratch3.0にVersion Up。3月に近隣のコミュニティハウスに話を持ち掛け、小学生と保護者に対し8月の夏休み中に「体験会」という形で一度開催することになりました。さらに9月からは月2回のペースでシリーズ化して開催することになりました。本来は小学校の先生方に参加していただきたいのですが、忙しいということではなかなか参加していただけていませんでした。せんせいがたの実態は次のようです。

「教職員のプログラミング授業の実施経験」なし85%、教育ネット調べ

B! Bookmark 1

プログラミング授業を実践した経験はありますか？

30分以上実施	5名
20分実施	3名
10分実施	13名
実施した経験はない	122名
未回答	0名

■ 30分以上実施
■ 20分実施
■ 10分実施
■ 実施した経験はない
■ 未回答

85% 9% 4% 2%

※ 市内公立小中学校教員 143人

朝日新聞神奈川版(2019/8/16)

多少ともスキルのある方は支援可能と思いますが、学校サイドから見てあるいは教育委員会から見て、民間の人材がどのようなスキルを持ちサポートが可能か、不安が先に立ち同時に期待もしているというのが現状ではないでしょうか。また一人では対応できない事案ではありますが、私にとっては幸い強力な DNY のメンバー桑原さんや市川さん富士通の石垣さん他の方々の支援によって進めることができます。

実際に「プログラミング教室」を行ってみますと、参加者が小学校 1 年生から 5 年生までを一緒に行う難しさがあります。例えば算数では、座標、掛け算・割算・余り、小数点、マイナス、角度などなど学年によってはまだ学んでいない用語が出てきます。解説書を作成しても漢字を使用できない場合はひらがな表記、あるいはフリガナを付けるなどが必要となります。

当然のことながら支援しようとする民間人側にもこれらへの配慮が求められます。

文部科学省の下記資料を参照願います。

学習指導要領生きる力 教科別

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/index.htm

SDGs への取り組み

SDG s を知るきっかけはクローズアップ現代を長年担当してきた国谷裕子さんによる隠岐の島の海士町レポートです。

<https://www.asahi.com/special/sdgs/amacho/>

海士町の住民 30 名が SDG s の視点で自己評価しているのを観て、SDG s は決して難しい話ではなく一人ひとりが対応すべき身近なテーマであることがわかります。

さらに SDG s の手法としてバックカスティングによる視点で DNY の活動を捉えることに意義があるのではとの思いで作成したものが次のものです。この背景には次のようなことも含まれています。

- 1)DNY の活動は一時よりはシュリンクしているが、今後も社会的意義のあるニーズはあり継続すべきと考えられます。
- 2)DNY のキーマンが相次いで亡くなったこともあり危機感がありました。私も 77 歳、残された人生を少しでも見通したい。そしてバトンタッチしたい。
- 3)新しい分野への好奇心もあります。

などと考えながら作成してみました。

以上参考になれば幸いです。

DNYの将来を見据えて、SDG s の視点から何をゴールとして、 いまなにをするべきかを考える（バックキャスティング）

ゴール



すべての人々への、包摂的かつ
公正な質の高い教育を提供し、
生涯学習の機会を促進する

具体的なすがたは？

長期的目標

～ 中期的目標

～ 短期的目標

アクション

中学生による
プログラミング コード

中学生による
プログラミング
Python他

GPIO工作、Robot、ミニカー

GPIOによるデータの活用

小学生による
プログラミング
Scratchなどマスター

2022/7 (3年先)

近隣小学校へのプログラミング
Scratch教育支援

Scratch以外のビジュアル
プログラミング

RaspberryPi3B+によるGPIO動作

Robotの動作

Pythonの勉強会

パソポラメンバー 勉強会

ビジュアル系プログラミング言語（主流は？）

ハード・ソフトの進化

引き継がれる目標

残された人生(宮田80歳まで)

2019/7

小学生相手のプログラミング
Scratch入門講座

小学校先生方へプログラミング
Scratch入門講座

RaspberryPi 3 B+入手

PicoBoard・MakeyMakey入手

Micro:bit入手

LEGO WeDo2.0入手

具体例：自筆の魚をスクリーン上に泳がせ、
簡易な釣り竿で釣り上げる